## 野外活動施設としての新たな試み

公益財団法人日本アウトワード・バウンド協会 尼崎市立美方高原自然の家 西垣幸造

1 施設紹介 1996年4月(平成8年)開館

尼崎市立美方高原自然の家 冬季には 2 mをこえる積雪にめぐまれ四季を通じた野外活動施設 定員:宿舎 260 人、キャンプ場 200 人 年間 37,000 人の利用のうち自然学校利用は、約 5 割。2022 年度からは尼崎市立の全小学校 41 校(2021 年度まで 33 校程度)が利用されるため、さらに利用割合は高まる。指定管理団体:公益財団法人日本アウトワード・バウンド協会(平成 21 年度~現在)

- 2 新たな試みとは
- (1) ISO9001 自然学校支援
- (2) IT 機器(情報端末)を活用した野外活動の提供

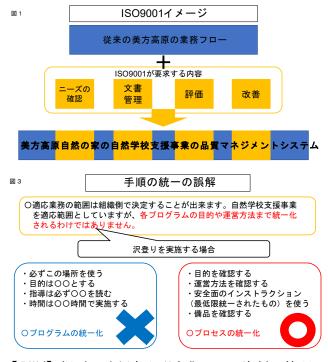
### 3 ISO9001 自然学校支援について

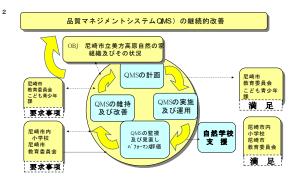
【経緯】兵庫県は小学5年生に4泊5日の自然学校事業を行われており、施設開設した平成8年春から利用されている。これまでは、施設で定めた自然学校支援(担当者の配置、プログラミング相談、活動指導支援等)を、行ってきました。しかし、プログラミング相談や活動支援において、職員の経験による支援の質には差があり、自然学校支援の質を担保することが課題の1つでした。

【ISO9001 とは】ISO9001 は、品質マネジメントシステムを運用し、質を担保するため国際標準化機構(ISO)が定めた規格要求事項に照らし合わせた自然学校支援の内容を明確にし、顧客である小学校、教育委員会などのニーズや要望を含め、継続的な顧客満足度を向上させ、内部監査や毎年の外部審査を行いながら自然学校支援の継続的改善につなげる仕組みです。

【ISO9001 自然学校支援認証までの期間】

2019 年 11 月キックオフミーティング 2020 年 9 月 ISO9001 認証に向けての自然学校支援開始 2021 年 3 月国内初 ISO9001 自然学校支援の認証





### 【運用と成果】

2年間、施設を利用しない自然学校支援の提供をして きた。本来の4泊5日の運用書類を変更、手順なども 変更をして運用してきた。

これまで取り組んできた自然学校支援に加えて、明確な確認事項等(誰がいつ確認した等)が整備され、品質目標を定め、経営者への報告とレビューを受けて次年度への支援改善を行う流れが構築できた。

【課題】相互の確認書や明文化された資料の管理など、現場以外での業務量をいかに効率化するか。

【今後に向けて】コロナ禍などの変化や小学校等のニーズをとらえ、継続的改善により顧客満足度を高める。

4 IT 機器(情報端末)を活用した野外活動の提供に関する実践報告

共同開発研究: 関西学院大学甲斐教授、情報科学芸術大学院大学等

# 【経緯】

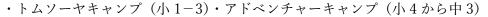
私たちは、情報端末を用いてAR(拡張現実)などを利用した自然の中での活動を実践し、創造社会といわれる society5.0 における野外教育の在り方を模索しています。

キャンプ場面では、society5.0でいわれるサイバー空間(仮想空間)とフィジカル空間(現実空間)を積極的に融合させた活動は、現在みられていません。そこで野外教育の分野では一見なじみのないテクノロジーを自然環境に持ち込み、自然における体験を新たに創出することを試みました。

【目的】 IT機器を用いた自然学校の効果的な実施および新たな尼崎型自然学校の開発

- ・本番での自然体験がより活きる活動の提供
- ・GIGA スクールとあいまった事前学習事後学習
- ・指導者+情報端末で、体験活動がより豊かになることを目指す。

【実践例】タブレットを用いた AR ネイチャーラリーと AR アドベンチャーラリー



- ・尼崎市内の小学5年生3校
- ・美方高原星空フェス 家族グループ4組

実施のながれ 「AR ネイチャーラリー」紹介動画 https://www.youtube.com/watch?v=FRU4ejmZ1P0

事前 ・画像を見ながら、匂い、音、さわった時の想像される感覚をワークブックに記載

本番・地図、タブレットをもって、グループでポイントを探す。

- ・ポイントでは、タブレットに表示される指示に従い、触る体験、匂う体験、音を聴く体験、 タブレットで写真を撮るなどの体験を行う。
- ・各ポイントの体験で得た感覚をワークブックに記載する。
- ・ふりかえりで、事前で想像したことと、実体験で感じた感覚との違いをグループで共有する。
- 事後 ・学校の校門付近の画像を見ながら、「ここではどんな音が聞こえているか?」をワークブックに 書き込みグループでシェアする。
  - ・「ここでどんな音が聞けたらいいか?」をワークブックに書き込みグループでシェアする。
- 【成果】参加者の声「使い方が簡単だったので、すごく楽しかった。」「またやってみたい」など、参加者や引率者からも肯定的にとらえられていた。

2021 年度日本野外教育学会で先進事例として実践報告。その際に他県の研究者からも興味関心、手法や情報共有を求められる。

#### 【今後にむけて展開】

- ・活動時間に合わせて児童への課題数や内容も変更可能。
- ・各ポイントでの課題を教科教育(英語・社会・理科・算数等)とのつながりなど
- ・今年度の影響調査結果を集約して、次年度 2022 年度に日本野外教育学会等で研究発表予定







